

#### 4 . 各報告書の詳細

すべての分析結果報告書の詳細について記載します。

分析結果報告書確認表示用の画面はA 4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

詳細では、個々の入力方法の詳細について記しています。

#### 4 - 1 分析結果報告書 [ 1 ]

土壌試料に関する分析結果報告書[ 1 ]の入力方法の詳細を記します

表4-1 土壌試料（水銀）（分析結果報告書 [ 1 ] ）

分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg / kg。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果(検出下限値以上)	検出下限値以上では、 <u>分析結果を有効数字3桁</u> （有効数字4桁目を四捨五入）で記入。
(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。
(注) 検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、 <u>全角文字</u> で具体的な分析方法を記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、 <u>全角文字</u> で具体的に記入。
測定波長	数値（半角）入力。単位：nm。
分析条件	<b>3回測定（併行測定）のうち、1回目の分析条件を記入する。</b>
< 試験溶液の調製 > 試料の分取量	数値（半角）入力。単位：g。
硝酸・過マンガン酸カリウム還流分解法	各試薬とも、数値（半角）入力。単位：ml。使用しない場合は「0（ゼロ）」を記入。硝酸(1+1)に変えて濃度の異なる硝酸を使用した場合には、硝酸(1+1)に換算した量を記入する。
硝酸・硫酸・過マンガン酸カリウム分解法	硝酸・過マンガン酸カリウム還流分解法の場合と同様。
硝酸・塩化ナトリウム分解法	硝酸・過マンガン酸カリウム還流分解法の場合と同様。
試験溶液の量（定容量）	数値（半角）入力。単位：ml。
< 測定 > 試験溶液の分取量	数値（半角）入力。単位：ml。

方式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
< 検量線の作成等 > 定量方法 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
検量線の作成 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲 最小濃度	数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の量（ $\mu\text{g}$ ）又は濃度（ $\text{mg} / \text{l}$ ）を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
最大濃度	数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。
単位	コンボボックスより選択。
最高濃度の指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
空試験 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
検出下限値	数値（半角）入力。単位： $\text{mg} / \text{kg}$ （試料中の濃度とする）。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	全角文字入力。「。」「、」「数字」、「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で簡潔に記入する。
計算式	全角文字入力。「。」「、」「数字」、「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記載する。 ( 試料 A g とり、分解後 B ml とする。還元容器に C ml とり、測定した。検量線から求めた測定溶液中の水銀濃度は D $\mu\text{g}$ であった。 ) この場合の記入例 分析結果 ( $\text{mg} / \text{kg}$ ) = ( D $\mu\text{g}$ - 空試験 $\mu\text{g}$ ) $\div$ C ml $\times$ B ml $\div$ A g

#### 4 - 2 分析結果報告書 [ 2 ]

土壌試料に関する分析結果報告書 [ 2 ] の入力方法の詳細を記します。

表4-2 土壌試料（砒素）（分析結果報告書 [ 2 ] ）

分析結果	数値（半角）入力。測定回数 3 回の結果を記入。 単位： $\text{mg} / \text{kg}$ 。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果(検出下限値以上)	検出下限値以上では、分析結果を有効数字 3 桁（有効数字 4 桁目を四捨五入）で記入。
(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字 1 桁で記入。
(注) 検出下限 : 例えば、空試験を行っ	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目と

てそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	いう条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的な分析方法を記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
分析条件	<b>3回測定（併行測定）のうち、1回目の分析条件を記入する。</b>
< 試験溶液の調製 > 試料量 試験溶液の調製に用いた酸の量 定容量(試験溶液量)	数値（半角）入力。単位：g。 数値（半角）入力。単位：ml。使用しない場合は「0」。 硫酸(1+1)に変えて濃度の異なる硫酸を使用した場合には、硫酸(1+1)に換算した量を記入する。 数値（半角）入力。単位：ml。
< 予備還元等 > 試験溶液の分取量	数値（半角）入力。単位：ml。前処理後定容とせず、分取しなかった場合は記入しない。
予備還元を試薬 よう化カリウム (酸を除く) 塩化すず( ) 鉄( ) 臭化カリウム アスコルビン酸 その他	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 全角文字で具体的に記入。
予備還元後の溶液（定容量）	数値（半角）入力。単位：ml。定容としなかった場合は記入しない。
予備還元後の溶液 塩酸濃度 硫酸濃度	数値（半角）入力。単位：mol/l。概略濃度を記入。 数値（半角）入力。単位：mol/l。概略濃度を記入。
還元剤	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
< 吸光度法 > 吸収液 測定波長	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：nm。
< 原子吸光度及びICP発光分析法 > 導入方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。

原子吸光装置 バックグラウンド補正	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
測定波長	数値（半角）入力。単位：nm。
ICP発光分光装置 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
バックグラウンド補正	コンボボックスより選択。
超音波初ライザ-の使用	コンボボックスより選択。
測定時間	数値（半角）入力。単位：秒。
測定波長	数値（半角）入力。単位：nm。
< 検量線の作成等 >	
定量方法 方法	コンボボックスより選択。
内標準物質の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
検量線の作成 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲 最小濃度	数値（半角）入力。吸光度法では量（ $\mu\text{g}$ ）、原子吸光法及びICP発光分析法では測定する溶液中の濃度（ $\text{mg/l}$ ）を記入。「ゼロ（0）」は含めない。
最大濃度	数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。
最高濃度の指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
空試験 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
検出下限値	数値（半角）入力。単位： $\text{mg/kg}$ （試料中の濃度とする）。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	全角文字入力。「。」、「、」、「数字」、「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で簡潔に記入する。
計算式	全角文字入力。「。」、「、」、「数字」、「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記載する。土壌試料（水銀）と同様。

#### 4 - 3 分析結果報告書 [ 3 ]

土壌試料に関する分析結果報告書 [ 3 ] の入力方法の詳細を記します。

表4-3 水質試料（全磷）（分析結果報告書 [ 3 ] ）

分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位： $\text{mg/g}$ 。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果（検出下限値以上）	検出下限値以上では、 <u>分析結果を有効数字3桁</u> （有効数字4桁目を四捨五入）で記入。
（検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。

(注)検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的な分析方法を記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
分析条件	<b>3回測定(併行測定)のうち、1回目の分析条件を記入する。</b>
<試験溶液の調製> 試料量 酸の量 定容量(試験溶液量)	数値(半角)入力。単位:g。 各試薬とも、数値(半角)入力。単位:ml。使用しない場合は「0(ゼロ)」を記入。 数値(半角)入力。単位:ml。
<吸光度法> 試験溶液の分取量 測定波長	数値(半角)入力。単位:ml。 数値(半角)入力。単位:nm。
<検量線の作成等> 定量方法 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 最高濃度の指示値	数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。吸光度法の場合では量( $\mu\text{g}$ )を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値(半角)入力。単位:最小濃度と同じ。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
空試験 指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
検出下限値	数値(半角)入力。単位:mg/g(試料中の濃度とする)。
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	全角文字入力。「。」「,」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で簡潔に記入する。
計算式	全角文字入力。「。」「,」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記載する。土壌試料(水銀)と同様。

#### 4 - 4 分析結果報告書 [ 4 ]

大気試料に関する分析結果報告書[4]の入力方法の詳細を記します。

表4-4 大気試料（ベンゼン等）（分析結果報告書〔4〕）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）を記入。
分析結果	<p>数値（半角）入力。単位：<math>\mu\text{g}/\text{m}^3</math>。</p> <p>4項目のうち分析を実施しない項目があった場合には、「9999」と入力。</p> <p>「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。</p> <p>測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。</p>
・分析結果（検出下限値以上）	検出下限値以上では、分析結果を有効数字3桁（有効数字4桁目を四捨五入）で記入。
（検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。</p>
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的な分析方法を記入する。
分析時の温度	数値（半角）入力。単位：。濃度の算出に用いた値を記入。
分析時の大気圧	数値（半角）入力。単位：kPa。濃度の算出に用いた値を記入。
分析条件	<b>（2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する）</b>
<p>&lt; 試料の濃縮 &gt;</p> <p>試料の希釈 希釈操作</p> <p>希釈倍率</p> <p>試料加圧前圧力</p> <p>試料加圧後圧力</p> <p>試料量（濃縮量）</p> <p>濃縮部</p> <p>除湿部</p> <p>濃縮部の加熱温度</p> <p>トラップ管の加熱温度</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。希釈しない場合には「1」。</p> <p>数値（半角）入力。単位：kPa。圧希釈以外では記入しない。</p> <p>数値（半角）入力。単位：kPa。圧希釈以外では記入しない。</p> <p>数値（半角）入力。単位：ml。希釈した場合には希釈した試料量。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。単位：。</p> <p>数値（半角）入力。単位：。</p>

パージガス	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
< G C / M S > G C 型式 M S 型式 装置型式 イオン検出法	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
カラム 型式  内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値(半角)入力。単位: mm。 数値(半角)入力。単位: m。 数値(半角)入力。単位: μm。
カラム昇温条件	温度( )、温度保持(分)、昇温速度( /分)、昇温回数(回)とも数値(半角)入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
キャリアーガス条件 種類  流量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値(半角)入力。単位: ml /分。
注入 注入口温度 注入方式	数値(半角)入力。単位: 。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
測定用質量数	すべての項目とも、数値(半角)入力。 定量に用いた質量数1つを記入。
< 標準ガス > 区分 購入: メーカー名	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
< 検出下限 > 検出下限	数値(半角)入力。試料中の濃度( μg / m <sup>3</sup> )として記入。
< 検量線の作成等 > 定量方法 方法 内標準物質の種類 内標準物質の添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値(半角)入力。濃縮部中の量( ng )で記入。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量  最大量 単位 最高濃度の指示値	数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。GCの注入量( ng )又は濃度( ppb )を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値(半角)入力。単位: 最小量と同じ。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。

試料	指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
空試験	指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点		全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 150文字以内で簡潔に記入する。
計算式		全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記載する。土壌試料（水銀）と同様。

#### 4 - 5 分析結果報告書 [ 5 ]

底質試料 1 に関する分析結果報告書 [ 5 ] の入力方法の詳細を記します。

表4-5 底質試料 1（ $\text{Hg}^{2+}$ ）（分析結果報告書 [ 5 ]）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）を記入。
分析結果	数値（半角）入力。単位： $\mu\text{g} / \text{kg}$ 。 3項目のうち分析を実施しない項目があった場合には、「9999」と入力。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。 測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。
・分析結果（検出下限値以上）	検出下限値以上では、分析結果を有効数字3桁（有効数字4桁目を四捨五入）で記入。
（検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的な分析方法を記入する。
分析条件	<b>（2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する）</b>
< 測定用試料液の調製 > 試料量	数値（半角）入力。単位：g。

試料からの抽出 溶媒の種類  1回当たりの溶媒の使用量 1回当たりの抽出時間 振とう 超音波 抽出回数	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。  数値（半角）入力。単位：m l。 数値（半角）入力。単位：分。 数値（半角）入力。単位：分。 数値（半角）入力。単位：回。
液・液抽出 溶媒の種類  1回当たりの溶媒の使用量 1回当たりの抽出時間 振とう 抽出回数	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。  数値（半角）入力。単位：m l。 数値（半角）入力。単位：分。 数値（半角）入力。単位：回。
クリーンアップ方法	コンボボックスより選択。 「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
濃縮の方法 0-列-IA <sup>+</sup> ポレーター K D 窒素吹き付け その他の方法	実施した場合には、チェックボックスにチェック。 実施した場合には、チェックボックスにチェック。 実施した場合には、チェックボックスにチェック。 その他の方法を実施した場合には、全角文字で具体的に記入。
定容量（測定用試料液量）	数値（半角）入力。単位：m l。
< GC / MS > GC 型式 MS 型式 装置型式 イオン検出法	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
カラム 型式  内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。  数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。 数値（半角）入力。単位：μm。
カラム昇温条件	温度（ ）、温度保持（分）、昇温速度（ /分）、昇温回数（回）とも数値（半角）入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
キャリヤーガス条件 種類  流量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。  数値（半角）入力。単位：m l /分。
注入 量 注入口温度 注入方式	数値（半角）入力。GCへの注入量(μl)を記入。 数値（半角）入力。単位： 。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
測定用質量数	すべての項目とも、数値（半角）入力。 定量に用いた質量数1つを記入。

< 標準原液 > 区分 購入：メーカー名	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
< 検出下限 > 検出下限	数値（半角）入力。試料中の濃度（ $\mu\text{g} / \text{kg}$ ）として記入。
< 検量線の作成等 > 定量方法 方法	コンボボックスより選択。
ソリッド内標準物質 使用の有無 添加物質 添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。GC/MS測定用試料液中の量（ $\text{ng}$ ）で記入。
サンプル内標準物質 使用の有無 添加物質 添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。試料への添加量（ $\text{ng}$ ）で記入。
（注）サンプル内標準物質とは、「外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル」では「サロゲート」と表記されている。	
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量 最大量 最高濃度の指示値	数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。GCの注入量（ $\text{ng}$ ）を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値（半角）入力。単位：最小量と同じ。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
空試験 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	全角文字入力。「。」「，」「数字」、「記号」等も全角文字入力とし、 150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	全角文字入力。「。」「，」「数字」、「記号」等も全角文字入力とし、 150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記載する。土壌試料（水銀）と同様。

#### 4 - 6 分析結果報告書 [ 6 ]

底質試料 2 に関する分析結果報告書 [ 6 ] の入力方法の詳細を記します。ここには、「ダイオキシン類に係る底質調査測定マニュアル」に規定する抽出方法の場合の結果を記入する。「ダイオキシン類に係る底質調査測定マニュアル」の規定以外の抽出方法の場合には、分析結果報告書 [ 7 ] に記入する。

表4-6 底質試料2（ダイオキシン類）（分析結果報告書〔6〕）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の数）を記入。
分析結果	<p>数値（半角）入力。単位：p g / g。</p> <p>（分析を実施しない項目があった場合には、「9999」と入力）</p> <p>「定量下限値以上」、「検出下限～定量下限」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入（ただし、毒性当量（TEQ）については「定量下限値以上」欄に記入）。</p> <p>測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。</p>
・分析結果（定量下限値以上）	定量下限値以上では、有効数字2桁（有効数字3桁目を四捨五入）で記入。
（検出下限～定量下限）	検出下限以上定量下限値未満では、有効数字2桁（有効数字3桁目を四捨五入）で記入。
（検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
<p>（注）分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（定量下限値以上、検出下限以上定量下限未満の値または検出下限未満での検出下限の値）」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p> <p>検出下限、定量下限とは、「試料における検出下限、定量下限値」を示す。</p>	
分析条件	<b>（2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する）</b>
<抽出> 試料のはかり取り量	数値（半角）入力。単位：g。
抽出方法	コンボボックスより選択。 「その他」の方法の場合には、分析結果報告書〔7〕に記入。
ソックスレ-抽出 溶媒	トルエン
抽出時間	数値（半角）入力。単位：時間。
溶媒量	数値（半角）入力。単位：m l。
ろ紙の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
抽出液の濃縮	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
濃縮後の定容量（抽出液）	数値（半角）入力。単位：m l。
クリーンアップ用の試料 （抽出液の分量）	数値（半角）入力。単位：m l。
クリーンアップスパイク 添加	コンボボックスより選択。
添加箇所	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。

< クリーンアップ > 硫酸処理 シカ <sup>レ</sup> ルコート 多層シカ <sup>レ</sup> ルコート	すべての項目とも、コンボボックスより選択。
その他の操作 GC/MS分析用試料液の調製方法	すべての操作とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
硫黄分除去の処理	すべての操作とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
転用溶媒	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
GC/MS分析用試料液 PCDDs及びPCDFs用 DL-PCB用	数値（半角）入力。単位：μ l。
< GC / MS > 対応物質 PCDDs及びPCDFs DL-PCB	（対応物質ごとにGC / MS 1 ~ 5 に記入する） チェックボックスにチェック。分析対象とした塩素化物を選択。
GC 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
カラム 型式  内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。 数値（半角）入力。単位：μ m。
昇温条件	温度（ ）、温度保持（分）、昇温速度（ /分）、昇温回数（回）とも数値（半角）入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
注入 量 注入口温度 注入方式	数値（半角）入力。単位：GCへの注入量(μ l)を記入。 数値（半角）入力。単位： 。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
キャリヤーガス条件 流量	数値（半角）入力。単位：ml /分。
MS型式 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
測定時の分解能	コンボボックスより選択。
イオン化 方法  電圧 電流 イオン源温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位： 。

<p>&lt; 検量線の作成 &gt;</p> <p>PCDDs及びPCDFs 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 繰り返し数</p> <p>DL-PCB 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 繰り返し数</p>	<p>数値（半角）入力。整数。</p> <p>数値（半角）入力。GCに注入する標準液の濃度（ng/ml）を記入。「ゼロ(0)」は含めず、異性体で異なる場合には最小値を記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。異性体で異なる場合には、最大値を記入。</p> <p>数値（半角）入力。整数。</p> <p>PCDDs及びPCDFsと同様に記入。</p>
<p>標準物質（液）</p> <p>PCDDs及びPCDFs 製造メーカー 開封後の月数</p> <p>DL-PCB 製造メーカー 開封後の月数</p>	<p>製造メーカーは、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>開封後の月数は、数値（半角）入力。単位：月。</p>
<p>装置安定性 感度変動 保持時間変動</p>	<p>数値（半角）入力。単位：％。</p> <p>数値（半角）入力。単位：％。</p>
<p>&lt; 内標準物質の添加量と回収率 &gt;</p> <p>クリーンアップスパイク 添加量 クリーンアップスパイク 回収率 シリジンスパイク 添加量</p>	<p>使用した内標準物質に該当する欄に記入。「その他」の内標準物質を使用した場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。添加した内標準物質の量（ng）を記入。</p> <p>数値（半角）入力。添加した内標準物質の回収率（％）を記入。</p> <p>数値（半角）入力。添加した内標準物質の量（ng）を記入。</p>
<p>&lt; 空試験値及び相対感度係数 &gt;</p> <p>空試験値（操作ブランク）</p> <p>相対感度係数（RRFcs） 相対感度係数（RRFRs）</p>	<p>数値（半角）入力。試料中の濃度（pg/g）に換算した値で記入（分析結果と同じ単位とする）。<u>空試験値が検出されない場合には記入しない（空欄とする）。</u></p> <p>数値（半角）入力。2つのピーク（質量数）では平均値を記入。</p> <p>数値（半角）入力。2つのピーク（質量数）では平均値を記入。</p>
<p>&lt; 検出下限値 &gt;</p> <p>装置の検出下限 試料における検出下限 試料測定時の検出下限</p>	<p>数値（半角）入力。<u>有効数字1桁</u>で記入。</p> <p>GC/MSで検出できる最小量（pg）を記入。</p> <p>検出できる試料中の最小濃度（pg/g）を記入（分析結果と同じ単位とする）。</p> <p>検出できる試料中の最小濃度（pg/g）を記入（分析結果と同じ単位とする）。<u>分析結果が検出下限未満であった場合に記入。</u></p>
<p>&lt; 測定質量数 &gt;</p>	<p>各塩素化物ごとに2つまでを選択（定量に用いた質量数を選択）。<u>質量数の表記は、記載しているマニュアル等により異なっていることもあり、質量数0.01以下ではそのことを考慮して選択する（近い質量数を選択する）。</u>「その他」を選んだ場合には、数値（半角）で具体的に記入。</p>

#### 4 - 7 分析結果報告書 [ 7 ]

底質試料 2 に関する分析結果報告書 [ 7 ] の入力方法の詳細を記します。ここでは、「ダイオキシン類に係る底質調査測定マニュアル」の規定以外の抽出方法の場合の結果を記入する。「ダイオキシン類に係る底質調査測定マニュアル」に規定する抽出方法の場合には、分析結果報告書 [ 6 ] に記入する。

表4-7 底質試料 2 (ダイオキシン類) (分析結果報告書 [ 7 ])

測定回数	1～5の整数(半角)入力。分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数(併行測定の回数)を記入。
分析結果	<p>数値(半角)入力。単位：<math>\mu\text{g}/\text{g}</math>。</p> <p>(分析を実施しない項目があった場合には、「9999」と入力)</p> <p>「定量下限値以上」、「検出下限～定量下限」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入(ただし、毒性当量(TEQ)については「定量下限値以上」欄に記入)。</p> <p>測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。</p>
・分析結果(定量下限値以上)	定量下限値以上では、有効数字2桁(有効数字3桁目を四捨五入)で記入。
(検出下限～定量下限)	検出下限以上定量下限値未満では、有効数字2桁(有効数字3桁目を四捨五入)で記入。
(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
<p>(注)分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(定量下限値以上、検出下限以上定量下限未満の値または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p> <p>検出下限、定量下限とは、「試料における検出下限、定量下限値」を示す。</p>	
分析条件	<b>(2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する)</b>
<抽出> 試料のはかり取り量	数値(半角)入力。単位：g。
抽出方法 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
溶媒	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
高速溶媒抽出(ASE) メーカー	全角文字で具体的に記入。
型式	全角文字で具体的に記入。

	抽出時間	数値（半角）入力。単位：時間。
	溶媒量	数値（半角）入力。単位：m l。
	圧力	数値（半角）入力。単位：p s i。
	温度	数値（半角）入力。単位：。
	static	数値（半角）入力。単位：分。
	Flush	数値（半角）入力。単位：%。
	回数	数値（半角）入力。単位：回。
自動ソックスレー	メーカー	全角文字で具体的に記入。
	型式	全角文字で具体的に記入。
	抽出時間	数値（半角）入力。単位：時間。
	溶媒量	数値（半角）入力。単位：m l。
迅速自動抽出（ソックスサーム）	メーカー	全角文字で具体的に記入。
	型式	全角文字で具体的に記入。
	抽出時間	数値（半角）入力。単位：時間。
	溶媒量	数値（半角）入力。単位：m l。
その他	メーカー	全角文字で具体的に記入。
	型式	全角文字で具体的に記入。
	抽出時間	数値（半角）入力。単位：時間。
	溶媒量	数値（半角）入力。単位：m l。